横浜水道の歴史（日本初の近代水道※）

横浜の水道は、日本で最初の近代水道として誕生し、今日まで安全で良質な水を皆さまにお届けしています。

近代水道の誕生

▲H.S.パーマー氏

戸数わずか100戸ほどの小さな村であった横浜は、安政６（1859）年の開港を機に人口が急増しました。当時の横浜は、市街や港湾の整備のために海が埋め立てられた土地であったため、ほとんどの井戸水は塩分を含み、飲用に適しませんでした。

そこで神奈川県知事は、英国人技師ヘンリー・スペンサー・パーマー氏に水道の調査・設計を依頼し、当時のヨーロッパの先進技術を取り入れた**日本で最初の近代水道の建設**に着手し、明治20（1887）年10月17日に給水を開始しました。

水道事業が神奈川県から横浜市に移管された明治23（1890）年の市の年間総予算額が5万円余りだった時代に、約107万円の工事費をかけて建設されました。

今日に至るまで

▲宮ケ瀬ダム

近代水道創設後は、関東大震災や第二次世界大戦の大きな被害を乗り越えて、人口の増加や給水区域の拡大、産業の発展に伴い急増する水需要に合わせ、ダムなどの水源開発と８回にわたる水道施設の拡張工事を進めてきました。平成13年には、宮ケ瀬ダムの本格稼働で将来にわたり安定して水をお届けできる水源と施設が整いました。

そして現在は、道志川など５つの水源や市内にある３つの浄水場、約9,300km※ある水道管の維持管理を日々行い、老朽化した施設の更新や大規模地震に備えた施設の耐震化などを計画的に進めています。

※令和2年度時点

横浜の水道は、100戸ほどの小さな村から約370万人都市にまで発展してきた横浜の人々の暮らしや産業を支えてきました。**市民の皆さまの安心な生活と都市活動を支えるインフラ**として、水道局はこれからも24時間365日安全で良質な水をお届けします。

※近代水道とは、川などから取り入れた水をろ過して、鉄管などを用いて有圧で給水する水道のことです。

水道局職員を装う不審者にご注意!

横浜市全域で、**水道局職員を装ったり、あたかも水道局から指示を受けたような口ぶり**で訪問したりして、**「配管の調査」**や**「老朽管の漏水調査」**をする事例が**頻発**しています。

水道局では、次のようなことは行っていません

- ご依頼のない配管などの調査や水質調査
  （配水課漏水管理係による地下漏水調査や事前にお知らせした場合を除きます。）
- 家の中の水道管の修理や作業代金の請求
- 浄水器などの訪問販売・レンタル・あっせん
- Eメールでの水道料金の請求や断水のお知らせ

水道に関することで訪問があった場合は、必ず**身分証の提示**を求めましょう。

少しでも不審な点がある場合はすぐに契約や金銭の支払い等はせず、水道局お客さまサービスセンターへご連絡ください。